

# あさおの町会・自治会 vol.45

麻生区にある125の町会・自治会をご紹介します。



## サニーハウス百合ヶ丘管理組合 理事長 山根 洋平

### 1.沿革

サニーハウス百合ヶ丘は1980(昭和55)年9月に竣工された5階建、総戸数120戸の集合住宅です。すぐ近くに田園調布学園大学前のバスターミナルがあり、小田急線(新百合ヶ丘駅、柿生駅、生田駅)や田園都市線(あざみ野駅、た



サニーハウス外観

まプラーザ駅、宮前平駅、溝の口駅)へのアクセスが便利な場所にあります。さらに2030年を目標に横浜市営地下鉄ブルーラインの延伸で新駅ができる予定となっており、新駅完成後は徒歩3分圏内になります。

すぐ近くにドラッグストアやスーパーマーケット、コンビニエンスストアもあり買い物には便利で、ヨネッティー王禅寺やこども文化センター、源左工門谷公園にも隣接し子育て環境にも恵まれています。

### 2.組織と役割

理事長、副理事長、監事、総務、会計、広報、防災、管理の12名の役員で構成

され、月に一度の理事会開催により住民の皆様が快適に生活できるよう議論しております。

自主防災組織も編成し、万が一に備えた防災訓練の実施や防災知識の啓発に努めています。



春の花植え

市内統一美化運動への積極的参加や、春と秋には川崎市の「町内会・自治会活動応援補助金」を利用し、マンション敷地内の花壇とフラワーポットへの花植えも実施しており、環境美化活動にも盛んに取り組んでいます。花植え開催時には子ども参加のくじ引き大会も併せて実施し、親子での参加を呼び掛けております。

また、「サニーハウス広報」を毎月発行、定期的な大規模修繕工事・小修繕工事の計画的実施、管理事務所・管理会社とも連携がとれた自治会であり、より住みやすい環境づくりをこれからも続けていきたいと思っております。

## 内野町会 会長 嵐田 雄也

内野町会は小田急線読売ランド前駅から坂道を登り切ったところにあり、現在、108軒が加入しています。当会の発祥は、当時を知る方々が鬼籍に入っているためわかりませんが、昭和30年代後半には既に存在していたようです。地域には山林が残り、地主が土地を売ると、ブルドーザーが入り、山を切り崩し、宅地化されました。そのように恣意的に開発されたため、道は細く曲がりくねり、未舗装、側溝も未設置で、都市ガスが通っておらず、防犯灯も町会で管理していました。そのため当初、町会には、住環境を守り、整備するという明確な目的があり、近隣の町会と盆踊りを開催するという活動も長く続いてきました。

その後、市による整備が進み、都市ガスが引かれ、街灯がLED化され、課題は解決されていきましたが、町会の目的は見えにくくなりました。ここ20年ほどで世代交代が進み、宅地の分割と建て替えも続いています。2000(平成12)年当時に88軒だった加入数は2割弱ほど増えましたが、コロナ禍もあり、人のつながりが希薄化しています。

そんな中、2022(令和4)年9月、各家庭に黄色いタオルを配布し、模擬的に安否確認をする防災訓練を初めて行ないました。各班長が安否確認をして報告会を行い、各家庭にも報告をしました。きっかけは前年度の新任町会長自治会長研修です。麻生区内125の町会で

133の自主防災組織があることを知りました。大災害が発生すれば、救急車や消防車、区の職員が来ることは難しく、自主的な活動は不可欠です。町会加入世帯の中で役員は約1割。危機感が少し共有できました。西生田小学校の会議室で区役所の職員から説明を受けたり、ZOOMやLINEを通じて会議を持ちたりしたほか、町会員である専門家に意見を聞きました。さらに近隣町会の活動取材し、ニュースレターを作成しました。アンケートも取り、その結果の安否確認活動でした。多くの方たちが参加してくださったことの意義は大きいです。

「空洞化しない町会」は大きな課題です。高齢化が進む一方、新しく入ってく

る家族も多く、子どもの姿も少なくありません。声を出すと人が動き、地域の姿が見えやすくなることは共有できたのではないのでしょうか。地域を作っていくことには未来があるように思っています。



黄色いタオルを使用した防災訓練



## あさお区内地域紹介

### ■早野のどんど焼き

早野町内会 会長 高橋 政雄  
当町内会主催のどんど焼き(左義長祭)が、1月に3年ぶりに馬取橋近くの田んぼで盛大に開催されました。どんど焼きは正月飾りや書初めなどを焚き上げ、この火で焼いた団子を食べて一年の無病息災を祈る行事です。早野では50年以上となる伝統行事で、毎年11月から準備を行っています。町内会員50人程が、焚き上げで使用する物を町内で調達し、正月明けに組み立てます。

当日は近隣住民が家庭から持ち寄った正月飾りやだるまなどが、竹及び笹で組まれたやぐらの中で焚き上げられました。火が小さくなると、しのの棒に刺した



2020(令和2)年1月12日の様子

団子を一齐に集まって焼きます。3年ぶりということもあり、今年は色の団子を300セット用意するも、たちまち売り切れに。たくさん来ていただいたことがありがたく、今後もこの伝統を継承していきたいと改めて思いました。

### ■金程町会のどんど焼き

金程町会 会長 伊藤 久史  
現在行われている当町会のどんど焼きは、金程町会、向原町会、金程富士見

会の三町会で主催されており、金程小学校や地元有志の会「金生会」の協力の下行われています。

古くからのどんど焼きは子どもたちが正月飾りやだるまを燃やすために竹・松・藁などで円錐形上の古代人の家のようなものを作り、中で餅などを焼いて食べ、正月15日に燃やす時には無病息災や、書初めを燃やして学力向上を願っていたようです。その風習も昭和初期には行われなくなり、昭和50年代に金程向原区画整理事業が持ち上がり、それまで田んぼと畑・山林だった地域が住宅地へ変わっていく時を迎



金程の昭和50年代のどんど焼き

えます。田んぼがなくなってしまう前に地元有志が昔を思い出し、最後のどんど焼きを行いました。その後造成が完了し、金程小学校の校庭でどんど焼きが復活、現在に至ります。

12~3mの長い竹を使った、直径5~6mと大きなもので、中を空洞にして囲炉裏を作り昔ながらのものとしています。毎年、正月最初の土日にどんど焼き作り、翌週の日曜日に燃やすのが恒例となっています。コロナ禍の影響で2年間は見合わせてきましたが、今年はやっと復活できました。



2020(令和2)年のどんど焼き

## 一日町内会長体験 ~岡上町内会~

麻生区区制40周年記念事業「あさおの未来を描く絵画展」の麻生区町会連合会賞の副賞として、百合丘小学校の吉本莉央さん(2年)が、2022(令和4)年11月26日(土)に一日町内会長を体験しました。

同会の宮野敏男会長が岡上町内会長を務めていることから、吉本さんは

同町内会でされている多世代交流の場「岡の上カフェ」にて一日会長に。

委嘱式で委嘱状と共に名札や名刺を手にした吉本さんは、名刺交換やクリスマスリース作り、健康体操を通し



委嘱式



名刺交換

てさまざまな世代の参加者と交流し、「地域の皆さんと楽しくお話しできました」と笑顔で話しました。



吉本さんの作品~えきからゆうえんち~ 「電車をおりたらすぐあそべるゆうえんちができたらいな」